ＢＣＬファンの交流誌

ආයුබෝවන්.

アーユボーワン（創刊号）

神戸 JAZZ&BCL の集い記念号

2019 春

みんなこんにちは❣

神戸市長田区のマスコットキャラクター

「なぁタン」だよ❣

長田区出身の漫画家 故・丘あつし氏により、阪神・淡路大震災からの復興を祈り、
長田区を元気付けるため、平成10年にデザインされました

★名前：なぁタン
★誕生日：5月1日生まれの、小学3年生。8歳
★好きなこと：歌って踊ること❣
★好きなたべもの：長田のぼっかけ入りのそばめし
★長所：持ち前の笑顔と素直さでまわりのみんなを笑顔にすること
★短所：よくドジをしてしまうこと
★トレードマーク：〝音楽のまち 長田〟にちなんだ、服のNのロゴマークの音符❣.

神戸市長田区のホームページより引用しました。
http://www.city.kobe.lg.jp/ward/kuyakusho/nagata/jyouhou/naatan/index.html

1.17 阪神淡路大震災を忘れない。

INDEX

SLBC と陽子さんと私（えぃみぃ）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

私の「アーユボワン」（植村 昭男）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3

Sri Lanka Broadcasting Corporation のベリカード（KOARA）・・・・6

スリランカってどんな国だろうか。（アエーシャー・ダルマシリ）・・・・7

ラジオでジャズを聞く。（せきやま☆あすか）・・・・・・・・・・・・13

BCL の隠し味と秘伝のタレ。（せきやま☆あすか）・・・・・・・14

3 匹のライオンに出会った日（難波正憲）・・・・・・・・・・・・・・・・15

哀愁の秋葉原に電磁波が降るのだ（せきやま☆あすか）・・・・・・・・18

ギャラリーKOBE・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・19

あとがき

SLBCと陽子さんと私

金澤江美(えぃみぃ)

　BCLを始めてしばらくたった頃、購読していた月刊誌『短波』。最初はただ読んでいるだけだったのですが、お便りコーナーにて海外日本向け日本語放送のリスナーズクラブの募集記事が掲載されていて、と同時にSLBCはまだリスナーズクラブがない、という事を知りました。

　ほんじゃアタシがする（＾▽＾）

　というなんとも軽いノリで始めた私(当時JK)。恐ろしいことに、実はスリランカが地球上のどこにあるのかも知らなかったのでした。(親に聞いてインドのすぐ下にある島国と判明orz)

そのときの会話
JK：「スリランカ放送リスナーズクラブ作ることにした」
親：「そんなん出来るんか？スリランカの歴史とか文化とかも知っとかんと」
JK：「え゛・・・。まぁそういうことも放送聞いて勉強するよ。」
親：「あ、そう。ふーん」
JK：「ところでスリランカってどこにあるんかな。アフリカの方やんな。」
親：「え゛！。違うで、アジアやで。インドの下の方。」
JK：「あ。そうなんや。」
親：「そんなことも知らんとリスナーズクラブすんの？大丈夫なんか！」
JK：「・・・(ーー;)ｴｯﾄ・・・」

　てな具合で、放送を聞き出したのとSLBCリスナーズクラブ発足がほぼ同時期とゆーとんでもない状況でしたが、熱心で心優しい会員の皆様に支えられて会を運営。ありがたや。

　会報の発行以外たいした活動もしていなかった当時。SLBC日本語番組の唯一のアナウンサー岡田陽子さんとはお会いしたこともなかったけれど、いつもSLBCやリスナーズクラブの事を考えていたため、陽子さんの存在は特別なものでした。
　お会いしたときの第一印象は、「写真といっしょや！むっちゃ綺麗（≧▽≦）」←普通
　とにかく感動しました。いや、感動とゆーより緊張MAX、結局何を話したのか殆んど覚えていません(哀)

　陽子さんは10代でスリランカへお嫁に行かれたそうです。船で！
　慣れない土地でご苦労も多かったでしょうが、忙しい中、日本語放送のアナウンサーを引き受けていらっしゃいました。
　しかし、当時は内戦が続いており、SLBCがあるコロンボも危険な状態となってきたため、ご子息のいらっしゃるアメリカに渡られ、陽子さんの放送も終わってしまいました。
　その後、アメリカと日本を行ったり来たりでしたが、内戦が終息し、またご子息・お嬢様は結婚され、家族も増えて今はスリランカでゆったりと暮らしていらっしゃいます。

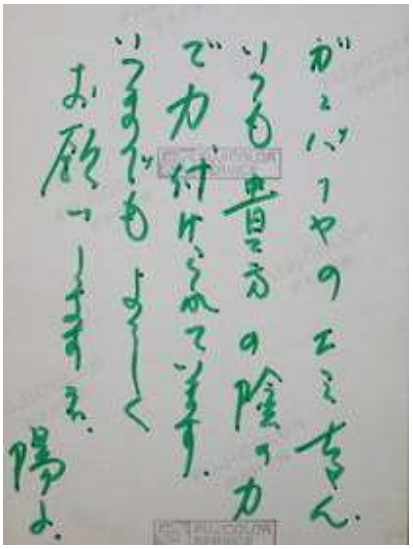
さて、放送が終了し、陽子さんとの関わりは薄れていましたが、SLBCで聞いた「スリランカ」には特別な思い入れがありました。
陽子さんが好き＝スリランカが好き。陽子さんに逢いたい＝スリランカに行きたい。
しかし突然陽子さんに逢いに行くのは勇気が足りない。なんといっても海外渡航未経験。スリランカに一緒に行ってくれる友人もいません。ここから崩して行く必要がある。

陽子さんに逢いに行くのはなかなか大変だけど、とりあえずスリランカにいくだけなら！
そんな動機(笑)で、非営利友好団体に所属。企画旅行に申し込み、旅行に参加しました。
もちろん陽子さんの住んでいるコロンボも訪れました。(家はどこにあるかわからなかった)

スリランカ訪問は無事コンプリート。いよいよ陽子さんとの再会へ！
超久しぶりに陽子さんに手紙を書き、更にメールで何度かやり取り、ツアーではなく一人旅（っつーても英語も話せないので、現地では日本語の話せるガイドさんが同行）で逢いに行きました。
陽子さんは水玉模様のワンピースでスラリと佇んでいらっしゃいました。変わらぬ美しさで改めて感激。
その後、陽子さんの暮らすマヤさん(お嬢様)ファミリーのお宅で2泊。観光も行きましたがやはり一番の思い出は陽子さんとの再会、そして陽子さんファミリーとの交流でした。

またすぐにでも会いに行きたい！そう思いながら一年、また一年と月日は流れ、気がつけばもう4年。そして今年の7月、同世代(と若者)のBCLな方々と陽子さんに逢いに行くことになりました。
BCLをきっかけに陽子さんと出会い、その30年以上のちに、当時放送を通じて同じ陽子さんの声を聞いていたBCLな方々と陽子さんに逢いに行く。電波は国と国、そして人と人とを繋ぐ架け橋なのだなぁとしみじみ。BCLってええね（＾◇＾）

えぃみぃ(スリランカヲタ)



わたしの「アーユボワン」

植村昭男

岡山市在住の植村昭男と申します。

台湾 RTI、韓国 KBS、ベトナム VOV、インドネシア RRI など、海外日本語放送を中心に聴いているゆるーい BCL ですが、よろしくお願い致します。

「アーユボワン」といえば、BCL の私にとってはやはりスリランカ放送協会 SLBC が真っ先に思い出されます。恥ずかしながら私自身、SLBC 日本語放送はたまに聴くといった感じで、熱心なリスナーではなかったのですが、岡田陽子さんの凛とした、品のあるアナウンス、そして放送開始と終了時に流れるゆったりとした「アーユボワン」は、今でも印象に残っています。

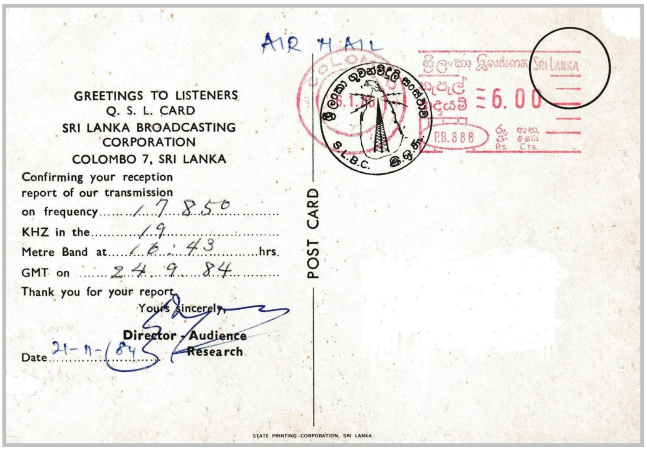
15 分という短い放送時間でしたが、スリランカのニュース、観光案内、音楽、シンハラ語講座、リスナーのお誕生日紹介コーナーなど、内容盛りだくさんの番組構成でした。

私の持っている SLBC のベリカードは 1984 年 9 月 24 日受信分の一枚（局舎写真）のみ、SLBC の受信ログもその時のもの（15350kHz、SINPO=44333、受信内容：スリランでの車の歴史の話題、スリランカ童謡）が残っているだけです。私がお付き合いさせていただいている OM の方から以前お譲りいただいた BCL グッズの中に SLBC からのカードもありましたので、私の手持ちのベリカードと共にご紹介します。

今回は集いの後、数年前まで放送していたラジオ関西の番組「ジャズライブ・イン・ソネ」でお馴染みだったソネに行けるとの事で、そちらも楽しみです集いで皆様にお目に掛かれます事、今から心待ちにしております。

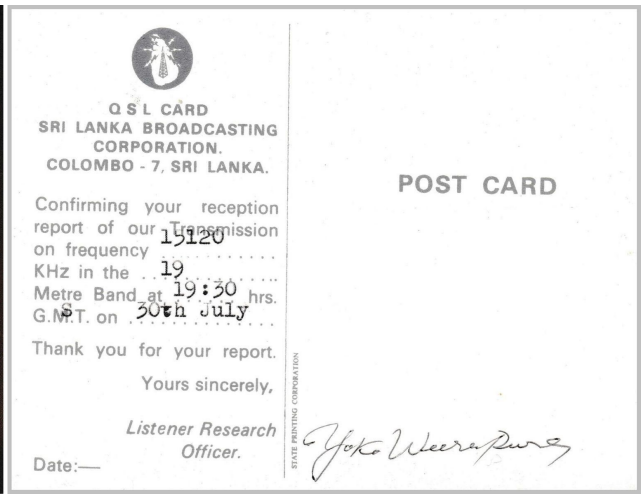
画像の説明です。（私と OM の住所氏名記載部分は消しています）

私がいただいた SLBC ベリカード

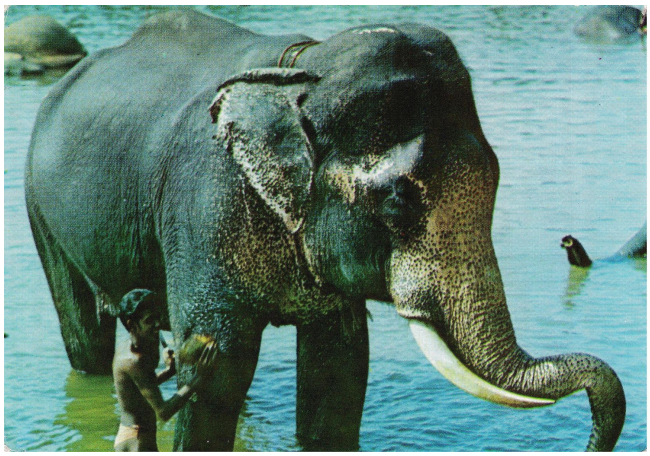


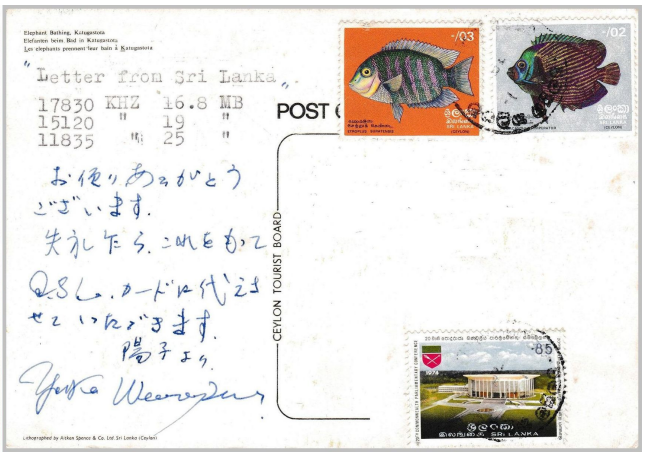
以下は私がいただいた返信物ではなく、OM がいただいたものです。私のカードには岡田さんのサインがないのですが、OM のカードには岡田さんの直筆サインがあって羨ましい！

SLBC ベリカード



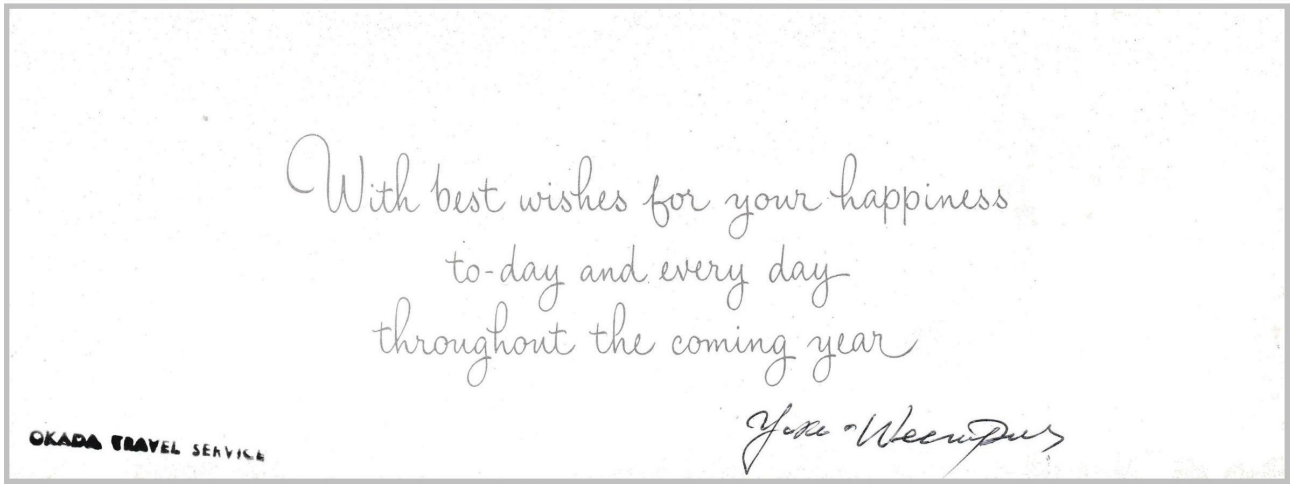
市販絵葉書使用の SLBC ベリカード



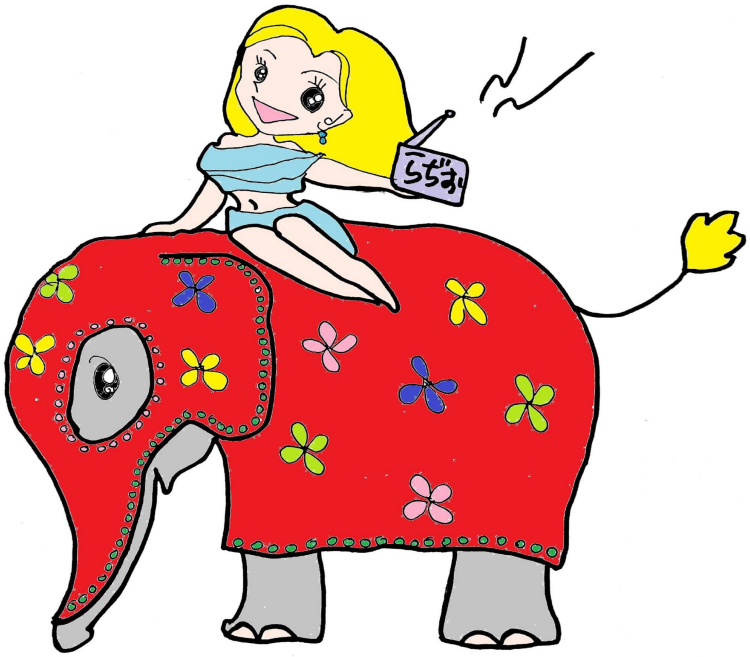


日本国内で投函された岡田さんからのグリーティングカード

年賀状（左下に岡田トラベルサービスの押印あり）



えぃみぃの穴埋めマンガ道場



Sri Lanka Broadcasting Corporation のベリカード

KOARA

インド洋に浮かぶ小さな島国・スリランカの「Sri Lanka Broadcasting Corporation」(SLBC・スリランカ放送協会）の日本語放送を聴いて、いただいたベリカードを紹介します。

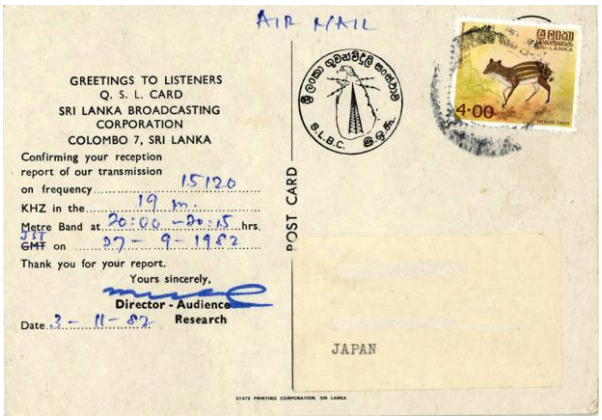
昔は、国名を「セイロン」と言っていて、紅茶が有名でした。1972 年 5 月に「スリランカ」に改められましたが、しばらくは戸惑ったことを覚えています。「セイロン紅茶」を「スリランカ紅茶」と呼び変えるのかな、と思いましたが、ブランドバリューがあることからか、今もそのまま使われています。

さて、日本語放送は、1971 年 1 月に始まったということですが、聴いたのはずいぶんと経ってからです。ナショナル RF-B30 を買ったのが、1982 年。それで 15120kHz を聴いてみました。当時、月・金曜日の週 2 回、午後 8 時からの 15 分間でした。アナウンサーとして、岡田陽子さんが一人で活躍されていました。

番組は、スリランカのニュースが主だったと記憶していますが、その他はどうだったのか、もうすっかり忘れてしまっています。いただいたベリカードは、局舎を写したと思われる写真になっています。

次に聴いたのは、ソニーICF-2001D を購入した、1985 年です。15120kHz ですが、夜 7 時 40 分からの開始になっていました。受信状態は、良く聴こえるというわけではなく、不安定でした。それからも何回か聴こうとしましたが、聴けませんでした。本当に放送しているのかな、状態でした。

この後、岡田さんが帰国されたりしたので、日本語放送は中断された期間もあったようです。最終的には、1989 年 10 月に終了したようで、聴いたのは 2 回だけ、いただいたカードは、2 枚とも同じ写真のものでした。



スリランカってどんな国だろうか。

インド洋で位置しているスリランカは涙の形をしている。元々はインド洋の真珠とも呼ばれていた。総人口は約 2027 万人で国土は北海道の 8 割程度である。1948 年にイギリス領よりセイロンとして独立した。スリは「光り輝く」、ランカは「島」を表す。仏教、ヒンドゥ教、イスラム教、キリスト教の四つの宗教があってみんな幸せで平和に暮らしている。

スリランカ人のいいところはおもてなしを最高であることだと言える。それで、最近スリランカにいらっしゃる観光客の割合もどんどん増えた。また、スリランカは世界のほかの国々と比べれば、非常に住み安い国だと思う。なぜかと言うと物価は安いし、治安もいいし、一日で北から南に行けば寒い地方、温かい地方も見られる。スリランカの最大の都市であるコロンボやゴールの年間平均最高気温は 30℃、最低気温は 24℃である。

そして、人間的にいいところは本音とたてまえがないことである。みんなお互いの理解で上下関係を維持している。また、社会のこと考えるとスリランカでは、日本の昔の封建制度に近い雰囲気があると思う。男性や父親に従う。女性や子供たちは従順であることを求められる。スリランカでは喫煙、飲食も女性はしない。昔の日本のようにそのようなことをする女性は、非難のまなざしで見られる。そして、家庭のことを見てみると親と子供の間の関係は死ぬまでとても強い。ですから、みんなお金があまりなくても毎日幸せな生活を過ごしている。

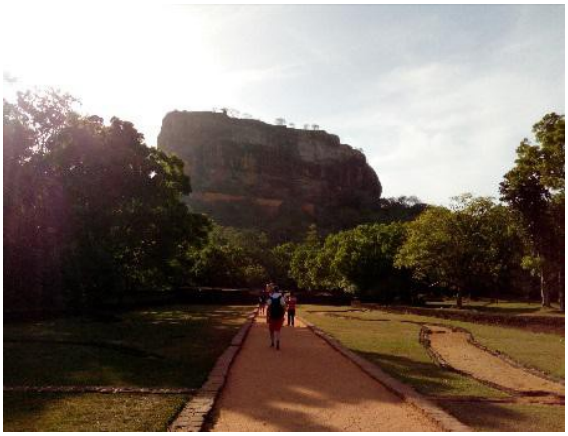
さて、スリランカの交通費はとても安い。電車はバスより安い。いいところは日本のように終点まで同じ値段ではなく、それぞれのバス停によって値段が変わることである。また、”Tuk Tuk”と言うスリーウイーラのメータタクシーはとても便利で安いである。

ところで、スリランカでは、国の主要行事なども占星術でみる。生まれた日時時間などで、個人の人生を占い、それに基づいて行動したり、変えたりする。就職、結婚なども占いに従って

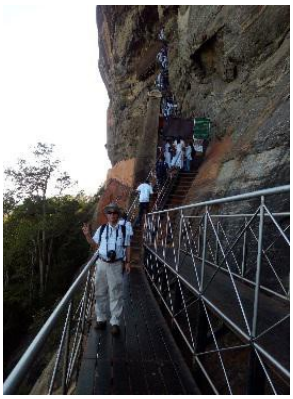
するのは一般的である。恋愛や知人の紹介で結婚する意思があっても、占星術を見る場合が多数である。

人気ある観光スポット

ピースボートであった日本人の山口さんといっしゅう間ぐらい旅行したところをご紹介したいと思う。1982 年、世界遺産　8（文化遺産）に登録されたシギリヤは人気ある観光スポットである。下からロックの真上まで水道をどうやって作ったかは今も誰も解明されていない。昔のエンジニアが優れた技術を持っていたと言うことが表わす。



ここの歴史は気が狂った孤独な当時の王のストーリーである。 シンハラ王朝の 5 世紀、ダートゥセーナ王の息子カッサパ 1 世は、王の甥であり軍司令官でもあったミガラの支援を得てクーデターを起こし、477 年には父親を殺し王権を奪取する。



シギリヤロックを登った後で、スリランカの昔の田舎を見に行った。

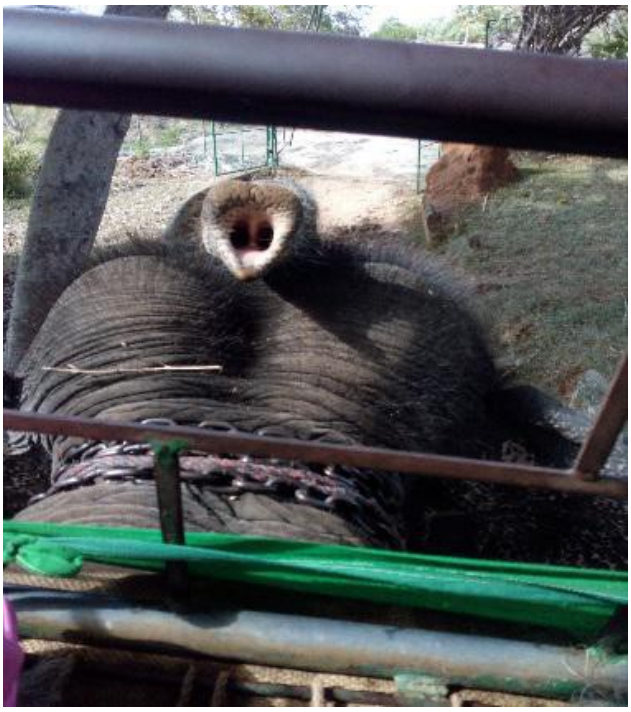
このようなカートに乗って美しい自然を見ながら田舎を見てみた。日本と同じようにスリランカも昔水田や畑を耕してみんな生活していた。像さんや豚から自分の畑やたんぼを守るために以下のようなハットを作って、夜寝ないでシーパダ（歌）を歌っていた。

私たちはそこにも乗って見た。

次に田舎の真ん中を通して行く川でボートライドもしました。

ボートライドの中蓮の葉っぱの帽子と蓮花の
ネックレスも作ってくれた。
天気も良くて涼しかった。皆さんもスリランカに
いらっしゃったら是非体験して見てください。

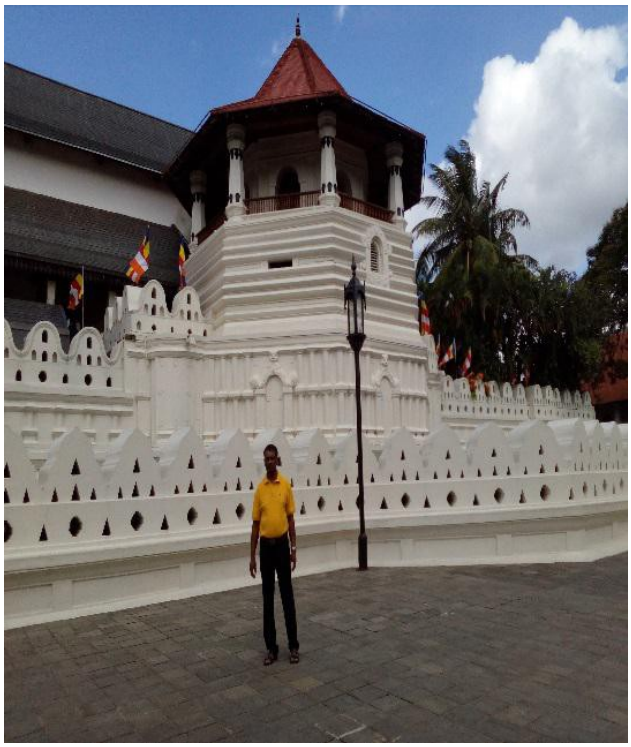
次のエリパントライドをした。とても楽しかった。



スリランカで体験できるお勧めのツーアである。

次にキャンディーへ行く途中であるスパイス
ガーデンに寄って見た。スリランカのスパイス
について知りたい方にお勧めする。日本語の
通訳者もいてより詳しくすべて説明してくれる。

そのあと、スリランカに素敵な町キャンディーに行って、ぶっしじに行った。



キャンディーはとても伝統的な町なので、スリランカの有名なキャンディーヤンダンスファフォーマンスも見られる。

素敵でしょう。

そのあと、キャンディーから電車で紅茶の世界ヌワラエリヤへ行った。

涼しくていい感じだった。ウーバティーとメルッナーティーはとても有名でお勧めである。また、紅茶キャステルもあってそこでいっぱい紅茶を買った。

紅茶を買うことだけではなくちゃぱたけから取った葉っぱは次次にどんなプロセスをして紅茶を出来上がってくるのかも紅茶工場に行って見学することも可能である。ヌワラエリヤから次に宝石のまちラトナプラに行った。私の実家もラトナプラでとても素敵なまちである。そこで、宝石博物館に行って、土からどうやって宝石を出てくるのか、宝石の種類も見てみた。一週間の旅行はとても楽しかった。

スリランカの食文化

スリランカと言えばみんな思い浮かぶのは紅茶とカレーだと思う。なんでもカレーにして食べるのはスリランカのスタイルである。ここで、カレー以外の食べ物についてご紹介する。

STRING HOPPERS ストリング　ホッパー

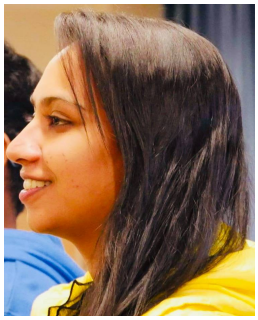
お米の麦から作る。やはりカレーと一緒に食べる。朝ごはんのためや晩御飯のためによく食べる。あまり辛くない料理である。

HOPPERS　ホッパー

ホッパーもお米の麦を使って作る料理である。普通のホッパーと卵入れたホッパーと言う種類がある。ティータイムにホッパーを食べる人が多くいれば、朝ごはんと晩御飯にする人のいる。とても安い値段でおなか一杯食べれるおいしいフードである。

KOTTHU　コットウー

KOTTHU はスリランカ人の間にとても人気あるフードである。卵、魚、チキン、野菜全部混ぜてある。ちょっと辛いけどとてもおいしい。スリランカに来たらぜひ食べてみてほしいフードの一つである。これ以外にもおいしい料理はいっぱいあるからぜひ食べてみたらと思う。



ありがとうございます。Ayesha Dharmasiri

ラジオでジャズを聞く。

せきやま☆あすか

神戸に行った。そこにはジャズがあった。

元町の有名なジャズ喫茶に入った。地下への暗い階段降りると扉の隙間からジャズが流れて来た。恐るおそるドアーを開けると大音量のジャズが飛び出て来た。俺はジャズの渦に飲み込まれた。ギネスビールを頼んで乾いた喉を潤すことにした。その間もジャズは手を緩めることなく俺の脳味噌を震わせた。間違いなく神戸にはジャズがあった。

ぐんまに戻ったジャズにわか者で BCL の俺はラジオでジャズを聞くという行為に及んだ。調べてみるとジャズの専門番組というのが全国のラジオ局に結構あるものだ。ジャズ番組の追っかけである。まずは愛用の小型ラジオでも受信できるいくつかの番組を聞いてみた。

◇ラジオ日本 「オトナの JAZZ TIME」
　土曜 23:00～24:00　1422kHz
◇ラジオ関西 「KOBE JAZZ-PHONIC RADIO」
　火曜 19:00～21:00　558kHz
◇ラジオ NIKKEI 第一 「テイスト・オブ・ジャズ」
　土曜 18:00～18:30 / 22:00～22:30(再)　3925kHz / 6055kHz
　日曜 23:00～23:30(再) / 23:30～24:00(再)　3925kHz / 6055kHz

中波や短波での放送は信号強度の変動やノイズそして混信もある。決して安定した受信状態ではないがラジオのスピーカーからジャズが聞こえてくると素直にうれしいものだ。今の時代はネットで全国の AM/FM ラジオを聞くことも可能なのだと言う。もちろん「SINPO=55555」だ。しかし、あえて放送波でジャズを聞くというシンプルな挑戦に俺は BCL 的ワクワク感を覚えるのであった。

ＢＣＬの隠し味と秘伝のタレ。

BCL の後輩たちに「BCL の隠し味」をおしえてくださいとか「BCL の秘伝のタレ」を伝授してくださいなどと真面目な顔をして言われた。そんなことに興味があるのだなあと驚いた。

そこでまずは言葉の意味を調べてみた。

隠し味

出典: フリー百科事典『ウィキペディア（Wikipedia）』
隠し味（かくしあじ）とは、調理の際に主要な食材以外の材料（目立たない程度であり、たいていは微量）を加え調味する技法、またはその材料を指す用語。それ自体が料理に必要なものではないが、加えることでその他の食材の風味を引き立てたり、料理のアクセントとして用いられることが多い。隠し味は味の決め手になることが多く、料理店などでは秘伝とする場合が大半であるが、最近では店主が雑誌やテレビなどで公表することもある。

これを無理やり BCL の世界に当てはめてみればよいのだろうか。

BCL において「主要な食材」とはなんだろう。ラジオやアンテナなど機材そのもののことかも知れないし放送の聞き方や楽しみ方など受信スタイルを指しているとも言える。そして「隠し味」とはそれらハード面やソフト面に加えることでより豊かで個性的な趣味の世界を生み出すために用いられるものなのだろうか。

それが何かなんて、ぼくにはわからない。

後輩たちには申しわけないけれどぼくのような「凡庸な味」の BCL にはおしえられることは何もないのだね。しかし世の中には間違いなく「隠し味」や「秘伝のタレ」を巧みに使った「一流の味」というものが存在するのだと思う。それがレジェンドと呼ばれるベテラン BCL たちだ。
若い人たちにはベテラン BCL と臆せず積極的に交流してほしいと思うし、レジェンドたちには惜しみなく「隠し味」を公表していただけることを望みたい。

これで彼らの答えになったかどうか心配だけどこれがぼくのささやかな「秘伝のタレ」のようなものと思ってもらえば幸いです。
さらに付け加えるのならば、ぼくが目指すのは「おいしい味」なのかなと思います。
みなさんのお口に合いますかどうか。

（一つ星 BCL／せきやま☆あすか）

３匹のライオンに出会った日

難波 正憲（jn4jgk/3）

出会いはいつも偶然、そして奇跡的だ。
あの時もそうだった。

「ＢＣＬ、興味ありませんか？　良かったらアンケート書いてってください」
お酒の匂いの漂う１人の男性から声をかけられたのは、アマチュア無線のイベント“ハムフェア”で会場内をぶらぶら歩いていた時だった。
「あ、はい・・・。中学生の頃は良くラジオ聞いてたんですけどね。」
なんて会話をしながらアンケートを書いた。内心、なんだかおもしろそうだなと思いながら、ブース内での出展物をじっくり見させてもらうことにした。

実は以前から気になっていた中華ラジオ、元箱付きで￥１．５ｋ。正直なところ、中華ラジオなんて、と思っていたのだが、￥１．５ｋなら失敗しても良いだろう。そう思って売ってもらうことにした。ただ、それだけでは済まなかったのだ。
「コレなんかもどうです？」
大きめの冊子と小さめの冊子、それぞれ￥１ｋ、￥０．５ｋ。２つ勧められると、どちらか１つは買わなきゃならない気になってしまった。出費を抑えたかったという理由で選んだのが￥０．５ｋの小さいほう。
「『俺のＢＣＬブック』・・・か。」
このイベントが終わって東京から大阪へ帰る新幹線の中で読み終わったとき、この男性が“ＢＣＬの王子さま”であることを知った。

帰ってから、その“ＢＣＬの王子さま”のことが気になって調べた。発せられていた只ならぬオーラは、単にお酒の匂いだけではなかったようだ。
ブログも見つけたし、Ｔｗｉｔｔｅｒでもフォローした。
その後Ｔｗｉｔｔｅｒやメールで何度かやり取りがあったし、ＢＣＬのイベントでもお会いする機会があった。

ある日のツイート。「今度大阪に行くので、一緒に飲める方募集中。」
かなり迷った。ある程度知り合いと言える程度の仲ではあると思っているが、それは単に一方的な想いかもしれない。
「もしまだお席が空いているようでしたら、私もご一緒させていただいて良いですか？」
同席者に確認中という返信の後、もう１通の返事が来た。
「お喜びください。無事お許しが出ました。〇月×日、１９時に東三国駅集合です。会場はスリランカ料理店で、３名となります。」

３名ってことは、もう１人は誰だろう。知らない人だろうか。でも、ＢＣＬ関係の人だってことは、きっと大阪でＢＣＬの集いをした時のメンバーの１人だろう。そんなことを思いながら、もう１人が誰なのか、あえて聞かなかったし知ろうとも思わなかった。むしろそんなワクワク感のほうが好きだから。

〇月×日、１９時より少し前に東三国駅に着いた。
スリランカ料理って。正直ピンと来なかった。なぜ普通の居酒屋ではないのだろう。
「あの・・・、奈良から来られた方ですか？」
改札を出てすぐのところで待っていると、女性の方から声をかけられたのでかなり驚いた。たぶん道を尋ねられるのだろう、と思ったが、自分がなぜ奈良から来たと分かったのだろうか、いくらなんでも顔にはそんな事書いてないハズだが・・・。
「あ、はい・・・。」
とだけ返事したが、次にその女性から“ＢＣＬ”という単語が出てきてやっと気づいた。もう１人の参加者はこの方だったのだ。
そうと分かれば、そこからは一気に打ち解けられた気になり、簡単な自己紹介をして、“ＢＣＬの王子さま”は何時くるのだろう、平日大阪に来るということは仕事の出張だろうか？いつも奇抜な恰好のイメージだが、今日はスーツ姿かな？などと他愛も無い会話をしながら待った。
１９時をいくらか過ぎた頃に“ＢＣＬの王子さま”はやってきた。意に反してラフな格好だった。既にお酒の匂いすら感じられた。

駅から歩いて間もなく、スリランカ料理店に着いた。
話によると、この女性は相当なスリランカオタクらしく、料理の注文はこの方に任せることにした。メニューの写真を見ても、どんな味だかまったく想像もつかなかったからだ。
ただ、さすがに飲み物の注文は自分で決めた。初めて会った方に自分の好みなどは分からないだろうから。
「オレはラガー」
「じゃあわたしは、スタウトかなぁ～」
2 人はスリランカの地ビール選びで既に盛り上がっているが、自分は普段ビールをあまり飲まないし、でもここに来てハイボールや焼酎なんてのはなんだか興醒めなので、残る１種類のスリランカビール“インペリアル”を選んだ。

改めて自己紹介となった。初対面なのは自分とその女性だ。
聞くと、どうやら単なるスリランカオタクではなく、昔スリランカの放送局“ＳＬＢＣ”が日本語放送をやっていた時代、リスナーズクラブを主催していた方なのだとか。王子さまもただ者ではないと思っていたが、この女性もただ者ではなさそうだ。
ＢＣＬという趣味にほんの少しだけ足を踏み入れている程度の自分がここにいるのが、なんだか恥ずかしくなってきたくらいだ。

注文したビールが届いた。
この３種類のビールが、スリランカの地ビール「ライオン」なのだ。
乾杯のあと一口のんで、かなり驚いた。こんなに香り高く、フルーティーで芳醇なビールなど飲んだことがなかったから。その後、ラガーやスタウトも飲んだ。どれもとにかくおいしかった。初めてのスリランカ料理店で初めて飲んだビールに衝撃を受けた。こんな奇跡的な出会いもあるのかと。

料理も来た。どれも結構スパイシーな味だが、単なる辛さだけではない深みのある味わいだ。一気にスリランカ料理の世界の虜になってしまった。
スリランカの話も聞いたし、ＳＬＢＣの話も聞いた。
当時ＳＬＢＣの日本語放送でアナウンサーをしていた１人の女性が今もスリランカに在住していらっしゃるそうで、その方に会いに行くというツアーが予定されているそうだ。ＳＬＢＣで日本語放送があった時代にはラジオを聞いていなかったし、実のところ、ついさっきまでスリランカがどんな国で、そもそもどこにあるのかすら知らなかったのだが、スリランカの料理、この日の雰囲気、そしてこの日出会った３匹のライオンたちに手招きされるがまま、スリランカツアーに手を挙げた。
どんな旅になるのだろうか、楽しみだ。

（ライオンビール。左から、スタウト、ラガー、インペリアル）

哀愁の秋葉原に電磁波が降るのだ

せきやま☆あすか

秋葉原でBCLのオフ会をしませんか？

おれはネットでそんな呼びかけをしてみた。2014年の秋のことである。そもそもこの年、おれは20年ぶりにBCLを再開した。そう、まずはそのことから書かなければならないだろう。

オフ会はまだ始まらないのだ。

正直なところ、なぜ「BCLを再開しよう」と思ったのかはっきり憶えていない。ネットで検索したら面白そうなのでまた始めたくなったとかオークションで昔のBCLラジオが欲しくなったというようなありきたりの理由ではなかった。
たしか、BCLの後輩たちと久しぶりにぐんまの温泉にでも集まってわいわいやってみたら面白いんじゃないか・・・。そんな他愛もないことがきっかけだったと思う。

さっそく彼らに連絡を取ろうと思った。急な話に驚くだろうな。
携帯電話のアドレス帳に残されていた番号の中から一人を選んでかけてみた。どきどきする。
・・・が、出ない。
まあ、今は出られない事情もあるのだろう。折り返しの電話を待つことにする。
もう一人の後輩にかけてみた。どきどきする。
・・・が、出ない。
まあ、20年も前の付き合いだからもう忘れたかな。こちらも折り返しの電話を待つことにする。
「みんなで温泉行こうなんて無理かな」と半ばあきらめつつ三人目に期待する。
・・・出た。いや、出てくれた。

あ、久しぶり。おれのこと憶えてる？

おれは恐るおそる話し始めた。相手は20年前に高校生だった。今はいくつになるのだろう。
「久しぶりだねえ、元気？　〇〇くんと△△くんにも電話したんだけど繋がらなくてね。うん、みんなで温泉でも行ったら面白いかなあと思って電話したんだよ」
そんなやりとりをしているうちに今日が7月の終わりで、その一か月後には「ハムフェア」が開催されることに気が付いた。
「そうだ、みんなハムフェアには集まるの？　それならおれ行くよ！」

BCLだけでなくアマチュア無線もやっている彼らはほぼ毎年のようにハムフェアには参加しているのだという。しかも出展者側での参加なのだという。これはもう行かない理由がないだろう。
温泉の話は一気に吹き飛んでしまった。おれの頭の中はハムフェアのことでいっぱいである。
昔は晴海の国際展示場で開催されていたが今は東京ビッグサイトなのだそうだ。

当日の再会を約束して電話を切った。電話してよかったと思った。
まだこの時点ではBCLを再開するとは思わなかったし秋葉原でオフ会を開くなんて夢を見るのも早かった。ただ彼らに会えるのが楽しみなだけだった。

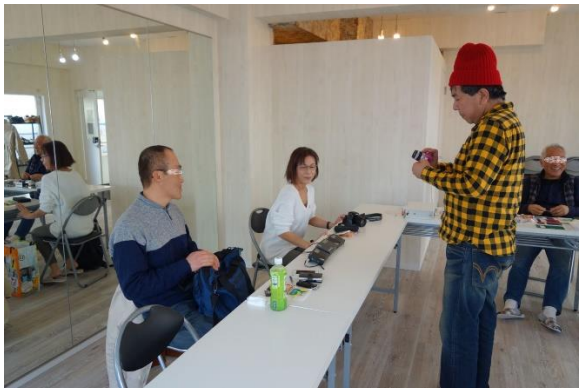
つづく。

ギャラリーKOBE

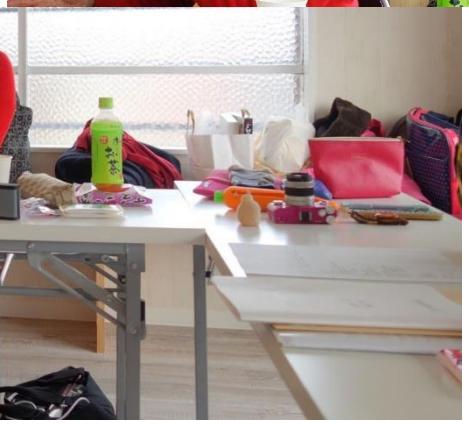
神戸ジャズと BCL の集い 2019 はじまりますよー集合！！

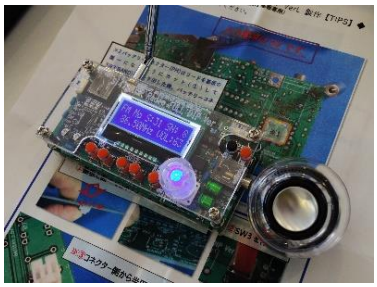
お菓子を配って、和やかに始まりました～

写真もいっぱい撮りませう！



発表ーっっ^▽^





うたっちゃうよーん(一応発表)

記念の集合写真撮って次の会場へ！

会場はここでしたっ

お土産のベリカード

2 次会はジャズライブを楽しむ大人のお時間❤️

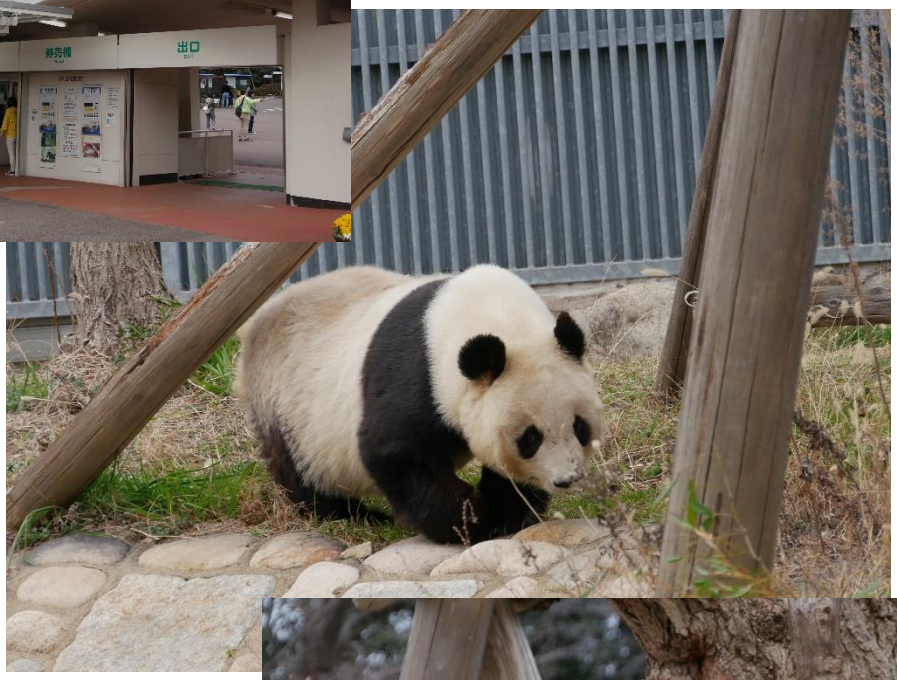
お、おとなの･･･^^;

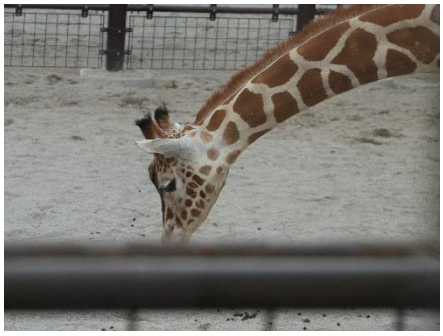
SONE さんでした！また行きたいね！

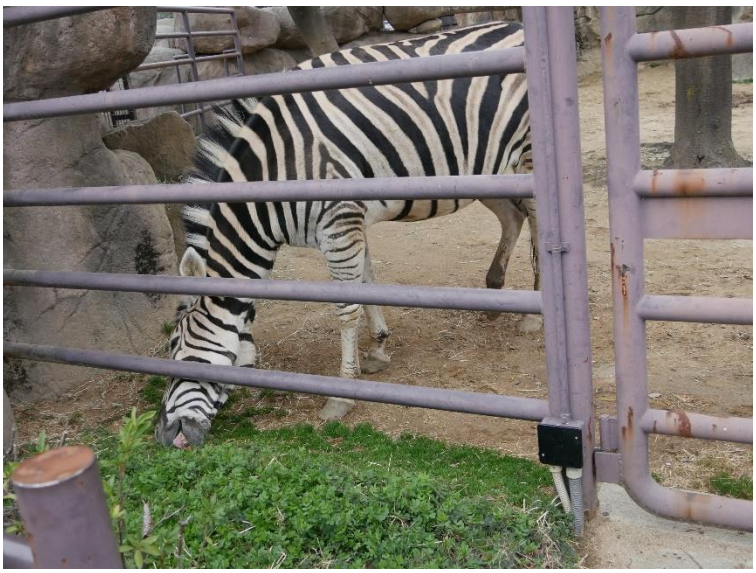
さて３次回(笑)

ジャマイカ料理のお店でした！ラジオタイランドが聞こえたよ^^

翌日はパンダのいる神戸王子動物園でマターリ^～^

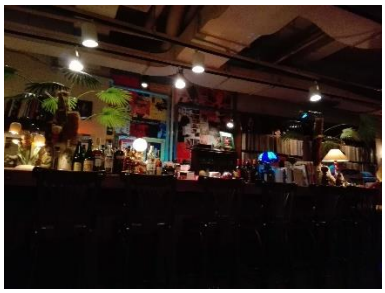






王子動物園へは
西武札幌駅へ
お回り下さい。
ZOO

Jam Jam



Happy
Birthday

あとがき。

◇この度は「アーユボーワン」を読んでいただきありがとうございます。みなさま、お楽しみ頂けましたでしょうか。その昔、SLBC 日本語放送が休止した後、元 JK（アタクシ）がしばしの間、勝手に発行して送りつけていた「あーゆぼーわん」とゆー落書きのやうな会報がございまして、その話をせきやま☆あすか氏にした所、ななんとこのようなやんごとなき冊子を作っていただけました！！

セキヤマッボホマストゥーティー！！（シンハラ語で「せきやまさん、ホンマにありがとぉ」）

ワタクシめの記事については「陽子さんの魅力満載でいこう！」という予定でしたが結局「アタシのこと、かきま～す♪」的な記事に。「あーゆぼーわん」のころからほぼ成長していない文章を忠実に再現いたしました(ウソです、ふつーです）。記事のバラエティ具合はまさに「あーゆぼーわん」！！久々に楽しく書きました。次回もみなさまの自由な投稿を楽しみにしております(^▽^)

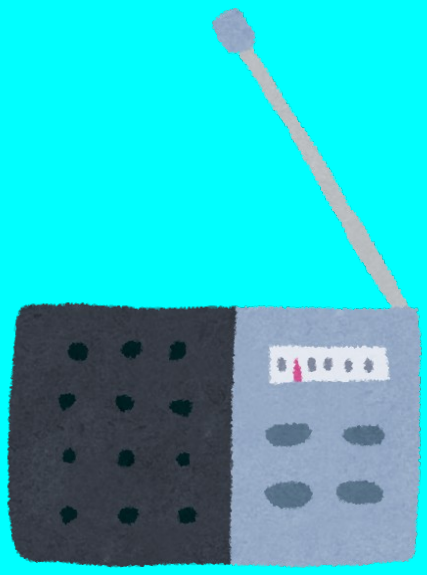
よ～し～な～に～　　（えぃみぃ）

第 1 回神戸 JAZZ&BCL の集い
2019 年 3 月 2 日(土) 13:00～17:00
KOBE RENT STUDIO & SONE

BCLファンの交流誌「アーユボーワン」（創刊号）
神戸 JAZZ&BCL の集い記念号（2019 春）

発行日：　初版2019年3月2日／第2版2022年3月1日
編集人：　金澤 江美(Office Samanalaya)／伊藤 晃(秋葉原BCLクラブ)
発行所　秋葉原BCLクラブ
Website：　https://www.abc50s.net/

(C)秋葉原BCLクラブ2022



秋葉原BCLクラブ